



令和4年8月5日

自主防災ときとう

発行 時任町会自主防災部
防災部長 佐久間英昭
函館市時任町19-13
電話 51-8429
(時任町会館内)

災害が起きても動じない心をつくろう！

防災の心得⑩

① 非常用持ち出し袋は

月イチで見直しを

○非常用持ち出し袋は1度セットして終わりではありません。

○食品の期限が切れていないかを確認

○持病の薬の変更はないか

○服のサイズアウトでないかを確認

②万が一に備えるには、平時に避難所に行っておくことが大切です。

○避難経路を二つ以上もつ

③災害が起きたらどう行動するか家族で打ち合わせておきましょう。

○何から情報収集するか

○どこに逃げるか。

○バラバラに避難した場合の連絡の取り方複数の連絡手段も話し合っておくこと

④楽しみながら防災訓練をやってみよう。

○いざという時は、私たちの命を守ってくれるのは、ものではなく知恵と経験です。訓練してみてください。

⑤普段から通勤経路や通学路、子供が通る場所などを観察しておこう。

○災害時にどこが安全で、どこが危険かを素早く判断することは、日ごろの観察と慣れが必要不可欠です。

⑥初めてのところに行ったら退出経路を確認する癖をつけておきましょう。

○何も無い時に考えておくからこそ、いざという時に適切な行動がとれます。

⑦マンションや職場の脱出経路を歩いてみましょう。

○緊急時にパニックに陥らないために確認しておくこと

⑧災害保険は入っておく

○自分がどのような保険に入っているかこの機会に確認しておくべきです。地震保険加入、水害補償もつけておきましょう。

⑨移動中に災害に遭う可能性がある時の備えについて

○長距離移動する時は天気予報や災害情報を確認し『拘束されるリスクの有無とレベル』を把握しておく。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

*ハザードマップは洪水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を色分けした地図です。無色されたところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい
災害の危険があるので、原則として、立退き避難（自宅の外に避難）が必要です。

*洪水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩壊してしまうおそれの高い区域の外側である。
②洪水する高さよりも高いところにいる。
③洪水しても水がひくまで我慢できる。水・食料などの備えが十分にある場合は屋内安全確保（自宅に留まり安全確保すること）も可能です。

いいえ
ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

警戒レベル3
高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日頃から相談しておきましょう。）

いいえ
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

警戒レベル4
避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日頃から相談しておきましょう。）



⑩どんな時でも三つ以上の用途があるものを考えておく
○防災グッズには「○○専用」の用途の限定されたものは購入せず、購入前に「持っているもので、代用できないか」と自問自答するのも大切な習慣です。できるだけ最小限にするために三つ以上の用途があるものを選んでおこう。